



2007年20号（通巻1158号）  
発行：筑波大学  
編集：総務・企画部  
発行日：平成19年11月14日

### 本号の内容

- ・人文社会科学部研究科インターファカルティ教育・研究イニシアティブ（IFERI）発足式
- ・経済産業省の「ナノエレクトロニクス半導体新材料・新構造技術開発プロジェクト」の公募で産総研・筑波大連携が合同申請した課題「シングルナノワイヤトランジスタの知識統合的研究開発」採択
- ・博士課程「短期在学コース」の創設に係る課題等に関する調査研究公開中間報告会開催
- ・「いばらきものづくり交流会 in つくば」参加・出展
- ・「筑波大学産学連携会ニーズ・シーズ情報交換会（第4回）」開催
- ・産学交流セミナー「筑波大学研究交流会・科学技術相談会」開催
- ・産学公・東京技術交流会参加
- ・産学連携セミナー・個別相談会参加
- ・実験動物慰霊式実施
- ・菅高原実験センターで「理科教室」開催
- ・筑波大学発ベンチャーがつくばベンチャー大賞及び特別賞受賞
- ・チュニジア共和国記者団が北アフリカ研究センター取材
- ・附属小学校の夏坂哲志教諭がドミニカ共和国の算数教育改善のために専門家派遣
- ・附属視覚特別支援学校児童と附属坂戸高等学校の生徒がいもほり交流
- ・附属桐が丘特別支援学校で附属坂戸高等学校との交流会実施

### お知らせ..... 8

- ・第9回無料法律相談会
- ・共済積立貯金・団体積立終身保険11月提出の「解約」手続き
- ・筑波大学FD研修会開催
- ・第3学期授業の曜日振替
- ・平成20年度推薦入学試験実施に伴う構内交通及び駐車場
- ・中央図書館2階新聞コーナー移動
- ・情報学群現代GP「異分野学生の協働によるコンテンツ開発演習第1回啓発セミナー」開催
- ・2007筑波大学安全キャンペーン週間実施
- ・平成19年度第4回化学類・自然科学類化学セミナー開催
- ・第52回リスク工学研究会（RERM）開催
- ・第4回 iit cafe 開催
- ・第19回医学7専攻研究セミナー開催
- ・第49回知的コミュニティ基盤研究センター研究談話会開催

### 各種表彰等..... 13

### その他..... 15

# 2007 20

## 総合科学技術会議において、遺伝子組換えユーカリの研究成果を福田首相らに紹介

10月29日に首相官邸で行われた第70回内閣府総合科学技術会議において、渡邊和男教授（生命環境科学研究科，生命産業科学専攻，遺伝子実験センター）及び菊池彰講師（同）が行っている「耐塩性遺伝子組換えユーカリの研究」が，議長の福田総理以下，町村内閣官房長官，岸田科学技術政策担当大臣，渡海文部科学大臣，甘利経済産業大臣，額賀財務大臣，若林農林水産大臣など関係閣僚や同会議有識者議員の前で，披露されました。

この研究成果は，（財）地球環境産業技術機構（RITE）の資金による東京農工大学及び日本製紙（株）との産学連携共同研究で，地球温暖化や環境修復対策を目指したものです。

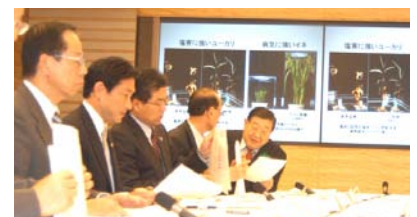
渡邊教授らのグループは，関連する研究で，既に遺伝子組換え体樹木の栽培について日本で初めて承認を受け，筑波大学構内で第一種使用試験を行っており，文部科学省を主務省とする研究では，唯一この承認を得ています。さらに，カルタヘナバイオセーフティー議定書のもとでの学術教育機関による国際協力のアジア圏幹事校として，今後，技術協力を通じた海外との植栽試験の展開も予定しています。

また，菊池講師は，会議で同時に紹介されたウイルス耐性イネの研究プロジェクト（独）農業・食品産業技術総合研究機構）にも関わっており，遺伝子組換え植物研究で目覚ましい成果を上げています。

（掲載写真は内閣府提供）



遺伝子組換えユーカリを紹介する渡邊教授



福田首相（左端）他閣僚へのスライド紹介の様子

人文社会科学部研究科インター  
ファカルティ教育・研究イニシ  
アティブ (IFERI) 発足式

人文社会科学部研究科から青木三郎教授 (文芸・言語専攻) を代表者として申請した平成19年度大学院教育改革支援プログラム (新領域開拓のための人社系異分野融合型教育) が採択されました。これは、人文系と社会科学系の異分野融合研究を促進する教育カリキュラムを展開することにより、(1) 独創的な研究課題に取り組む研究者を育成し、(2) 新たな研究領域を開拓することを目的とする教育プログラムです。このプログラムを推進するために研究科内に専攻間の連携を行う「インターファカルティ教育・研究イニシアティブ (略称IFERI)」を立ち上げる運びとなりました。

10月24日、学長、副学長をはじめ、関係教員、第一期プログラム生の出席の下、IFERI発足式が執り行われました。発足式では、岩崎洋一学長が祝辞を述べ、青木教授が当該プログラムのスタッフや概要を紹介しました。続いて第一期プログラム生が紹介され、最後にプログラム生代表が決意表明を行い、同プログラムに対する意気込みを語りました。

また、発足式に引き続き、学長、副学長と人文社会科学部研究科教員との懇談会が行われ、直面している教育・研究現場の現状、課題等、現場の声を伝える良い機会となり、お互いに有意義な懇談会となりました。



第一期プログラム生による決意表明



プログラムの概要

経済産業省の「ナノエレクトロ  
ニクス半導体新材料・新構造技  
術開発プロジェクト」の公募で  
産総研・筑波大連携が合同申請  
した課題「シングルナノワイヤ  
トランジスタの知識統合的研究  
開発」が採択

経済産業省の「ナノエレクトロニクス半導体新材料・新構造技術開発プロジェクト」(平成19~23年)の公募で(独)産業技術総合研究所・筑波大学連携が合同申請した課題「シングルナノワイヤトランジスタの知識統合的研究開発」(代表:金山敏彦氏(産業技術総合研究所),筑波大学側責任者:村上浩一教授(数理物質科学研究科))が採択されました。Siナノワイヤをナノデバイス化するための基礎から応用に亘る研究開発で、予算は5年間で約5億円です。

本学のナノエレクトロニクス新材料・新構造研究グループ(電子・物理工学専攻及び物質創成先端科学専攻)から平成19年度は村上浩一教授(電子・物理工学専攻),佐野伸行教授(同),山部紀久夫教授(同),重川秀実教授(物質創成先端科学専攻)が参加します。筑波研究学園都市における産学独連携によるナノサイエンス分野の新たな教育研究システム構築の検討と可能な具体的実践を2000年から7年余り続けてきましたが、最近の3年間はさらにナノエレクトロニクスに的を絞り、この構想実現のために具体的活動を進めてきました。採択されたプロジェクト研究は、本学のナノサイエンス特別プロジェクト研究組織で平成14~18年の5年間行ったつくば連携研究の一部を発展させ、つくばにある(株)半導体先端テクノロジーズSeleteとも協力して、本学として積極的に産学独連携システム作りと、それによる人材育成に努力してきた積み重ねの実績から生まれたものです。この連携研究、人材育成プロジェクトに積極的に参加したい研究者には門戸が開かれており、実績により参加する研究者の入れ替えも考えられています。

博士課程「短期在学コース」の  
創設に係る課題等に関する調査  
研究公開中間報告会を開催

- システム情報工学研究科 -

10月23日、総合研究棟A110において、平成18年度「先導的・大学改革推進委託」の一環として文部科学省から本学に委託された「博士課程『短期在学コース』の創設に係る課題等に関する調査研究」の中間報告会が開催され、本学教職員、学生ら総勢50名が出席しました。工藤典雄副学長(教育)の挨拶の後、熊谷良雄特任教授(前システム情報工学研究科長)により趣旨説明があり、システム情報工学研究科社会

システム・マネジメント専攻5名の教員により調査内容の報告が行われました。赤平昌文数理物質科学研究科長、鈴木久敏大学研究センター長（ビジネス科学研究科）、石田東生教育企画室長（システム情報工学研究科）らから質問があり、活発に議論が展開されました。最後に、田中二郎システム情報工学研究科長の総括で報告会を終了しました。本調査研究は本年度が最終年となります。11月中旬に香田正人社会システム・マネジメント専攻長（システム情報工学研究科）、中村豊社会システム工



学専攻長（同）らによる中国文部省及び浙江大学や四川大学など4大学へのヒアリングを皮切りに、調査を本格的に進めます。来年2月にホームページ上にて最終報告書原案を公開の上パブリック・コメントを実施し、2月29日に秋葉原において最終報告会を開催します。なお、中間報告書の内容は、<http://www.sk.tsukuba.ac.jp/SSM/report/index.html>にて公開しています。

「いばらきものづくり交流会 in つくば」に参加・出展  
- 研究事業部産学連携課 -

10月25、26日の2日間、つくばカピオにおいて「いばらきものづくり交流会 in つくば」（主催：茨城県他）が開催されました。本交流会は、茨城県の産業を担う意欲ある企業が保有する優れた技術や製品を広く県内外に紹介するとともに、取引企業、支援機関等との交流、商談の場を提供し、新たな技術開発、販路拡大を図ることを目的として、「ものすごいもの大集合」をテーマに、従来の「テクノフェア in つくば」をリニューアルして今回第2回として開催されたものです。産学連携課で



会場の様子

では、本学の知的財産に関する取組や産学リエゾン共同研究センター（ILC）の事業、筑波大学産学連携会（TOMO）の事業及び研究成果についてポスター展示及び資料配布により、来場者に対して説明を行いました。会場には80機関の出展があり、来場者は2日間で延べ3,500人を超え、活発な交流が行われました。

「筑波大学産学連携会ニーズ・シーズ情報交換会（第4回）」を開催 - 研究事業部産学連携課 -

10月30日、産学リエゾン共同研究センターと筑波大学産学連携会（TOMO）の主催による「筑波大学産学連携会ニーズ・シーズ情報交換会（第4回）」が春日地区情報メディアユニオン（メディアホール）において、48名の会員の外、本学から水林博副学長（研究）、工藤典雄副学長（教育）及び泉紳一郎副学長（財務、施設）の参加のもと開催されました。

本会は、企業ニーズと大学シーズを通じて、相互による話題提供を身近に図りながら、一層の産学連携を促進することを目的に開催されています。

今回はバイオテクノロジー関連におけるニーズと、本学教員の研究から生まれた2件の研究シーズについて、それぞれわかりやすく紹介しました。

開催に先立ち、本学を代表して、岩崎洋一学長の挨拶の後、大滝義博代表取締役社長（（株）バイオフロンティアパートナーズ）



本学を代表して挨拶する岩崎学長



ニーズについて解説する大滝氏

より「バイオテクノロジーへの期待」について、引き続き、研究シーズの報告として高橋智教授（人間総合科学研究科）より「筑波大学生命科学動物資源センターにおける遺伝子改変マウスの受託作製サービス」について、次いで江面浩教授（生命環境科学研究科）より「果実研究のモデル植物トマトのリソース整備が始まった」について、それぞれ報告がありました。

報告会終了後の懇談会では、参加者、各報告者並びに岩崎学長、水林副学長、泉副学長及び大学関係者を囲みながら、終始なごやかな懇談が行われ、盛況のうちに終了しました。

産学交流セミナー「筑波大学研究交流会・科学技術相談会」を開催 - 研究事業部産学連携課 -

10月19日、西京信用金庫本店（新宿区）において、産学交流セミナー「筑波大学研究交流会・科学技術相談会」を西京信用金庫と産学リエゾン共同研究センター（ILC）の共同で開催しました。本セミナーは、本学の研究成果を企業に紹介し、共同研究や技術移転の促進を図るため、平成16年度から継続して定期的で開催しているもの



講演する田中教授



講演する吉田講師



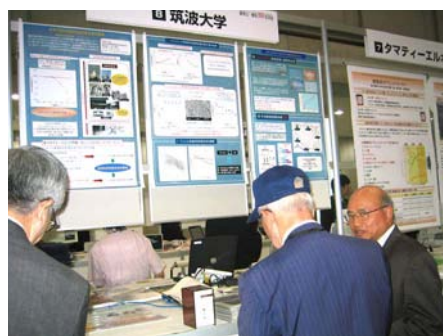
本学ブース

です。今回は、新しい試みとして二部構成とし、第一部は本学の研究成果の紹介、第二部は本学を中心に他の大学や中小企業支援機関等にも参加していただいたの相談会としました。

第一部では、村上清司常務理事（西京信用金庫）の挨拶及び浅野定雄研究事業部産学連携課課長補佐から「大学の社会貢献について」の説明の後、田中喜代次教授（人間総合科学研究科）から、「私はこうしてベンチャー企業を立ち上げた!!確かな結果を出す減量指導～3ヵ月で8kg・8cm・8歳 筑波大学式SMART Diet(スマート・ダイエット)～」, 吉田滋樹講師（生命環境科学研究科）から、「食!!美味しさを作り出す微生物の働き」と題した講演がそれぞれ行われました。両者とも、身近な大変興味深い内容であったため、150名を超える参加者で会場も満席となり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

第二部では、同センター及び講演者である田中教授、吉田講師もそれぞれブースを構え、合わせて11のブースが設置され、参加者の相談や質問に対応しました。会場は身動きがとれぬ程参加者が集まり、活気溢れる相談会となりました。今後もこのような機会を通じて、本学の産学連携が発展していくことが期待されます。

産学公・東京技術交流会に参加 - 研究事業部産学連携課 -



本学ブース

10月25,26日の2日間の日程で、東京ビッグサイトにおいて東京都産学公連携事業「産学公・東京技術交流会」が開催されました。

この交流会は、技術開発を目指す中小企業と豊富な技術シーズ・知識を有する大学等が共同研究開発を行うためのきっかけ作りの場として、平成12年から開催されているものです。今回は、多くの企業

に「産学公連携」についてPRできるよう、東京都が毎年実施している、成長産業を牽引する魅力的な首都圏の中小企業が集結する国内最大級のトレードショーである「産業交流展2007」との同時開催で実施されました。この「産業交流展2007」には、過去最高の726社・団体、880ブースの出展があり、来場者は2日間合わせて40,550人になったということです。

規模の大きなイベントとの同時開催ということで、出展者や来場者はバラエティーに富み、本学ブースにも様々な企業の方々が来訪し、情報交換や意見交換が行われました。来訪する企業の方々による本学に対する評価は一樣に高く、産学連携をさらに推し進めることにより、本学の研究成果がより社会へ還元されることが期待されています。

産学連携セミナー・個別相談会  
に参加

- 研究事業部産学連携課 -

10月31日、東京・大手町の中小企業金融公庫本店において「産学連携セミナー及び個別相談会」(主催：中小企業金融公庫)が開催されました。

中小企業金融公庫では、本学を含む首都圏17大学と産学連携スキームを構築し、全国の公庫取引先中小企業と大学との技術相談等の橋渡しを行っており、その一環として、毎年1回、当該セミナー・個別相談会を開催しているものです。

今回は、技術的な課題を持った公庫の取引先中小企業29社延べ109件の相談について、産学連携スキームのうち本学を含む16大学が個別相談ブースを設け、個別相談に対応しました。本学ブースでは、産学官連携コーディネーター、技術移転マネージャー及びシニアコーディネーターが、あらかじめ技術相談ニーズ調査票の提出のあった企業13社の相談を受け、熱心な質疑が行われていました。

また、産学連携セミナーには84社100名の参加者があり、中小企業金融公庫から、「産学連携によるデザイン・ブランド戦略」と題し、文系、主に芸術系の大学との連携に関する提案や、日本大学から「産学連携による地域資源活用事例の紹介」と題した学生参加の実践教育を絡めた成功事例がわかりやすく紹介されました。

参加者の中には、産学連携によって新製品の開発や事業の拡大に繋がりたいという意欲のある企業が多く見られ、今回の個別相談をきっかけに、今後、本学との共同研究等に発展することが期待されます。



左から、相談を受ける角井産学官連携コーディネーター及び藤田技術移転マネージャー



左から、相談を受ける林技術移転マネージャー及び古澤シニアコーディネーター

実験動物慰霊式を実施

- 生命科学動物資源センター -



挨拶する水林副学長

10月31日、平成19年度実験動物慰霊式が、生命科学動物資源センター北側慰霊碑前で工藤典雄副学長(教育)、水林博副学長(研究)はじめ、教員及び学生等医学・生命科学の研究等に携る関係者300余名の出席のもと実施されました。多くの動物が尊い命を捧げてくれたことに感謝し、冥福を祈るとともに医療技術の進歩を支えていくことを誓いました。

菅平高原実験センターで「理科教室」を開催

ことぶき大学院

菅平実験センターでは、10月に3件の理科教室が開催されました。

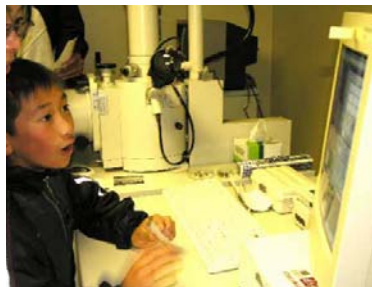
11日に長野県上田市教育委員会「ことぶき大学院」からの「細胞をみたい！」との要望に、平均年齢70歳12名の「大学院生」を招いて実習を開催しました。初めて使



う生物顕微鏡や走査型電子顕微鏡を、最初は慣れない手つきで、最後には夢中で操作し、目を輝かせて観察していただきました。

19日は、上田市立菅平小学校6年生全8名が学びに来ました。「昆虫の体の不思議」と題して、バッタなどのいろいろな昆虫を双眼実体顕微鏡の下で解剖し、体のつくりを観察しました。そして走査型電子顕微鏡で、今まで見たことがない昆虫の体のつくりの精緻さを目にして、歓声を上げていました。

小学生の走査型電子顕微鏡観察



24～27日には、SSHの一環として、私立清真学園高等学校（茨城県鹿嶋市）20名の生徒を対象とし実習を開催しました。テーマは「土壌動物の観察と分類」。同センターには、100年間の植生遷移を体感できる広大な森林があります。まず、最初にサンプリングをかねてこの植生遷移展示林をエクスカージョン、高校生たちは初めて実感する植生遷移の姿に驚きを覚えた様子でした。持ち帰った土壌サンプルから土壌動物を抽出、プレパラートを作成、いろいろな顕微鏡で観察、検索表にしたがって土壌動物を分類、彼らは土壌動物のセミプロになったようです。各自さらに詳細に観察したい動物を選び、自身で試料作成、走査型電子顕微鏡観察を行いました。土壌の中の小さな動物の予想もしなかった素晴らしい体のつくりで驚嘆していました。最終日には班ごと成果発表、熱のこもった議論がなされました。

菅平小学校理科教室



SSH実習：構内のエクスカージョン



SSH実習：土壌動物の観察



今後も同センターでは、地域、社会の要請に応じて活発に教育貢献活動を続けていきます。このような活動にはセンター常駐の学類生、大学院生のティーチングアシスタントとしての働きが欠かせませんが、彼らにとってもキャリアパスの観点から「即戦力」として育ついいチャンスとなっています。

筑波大学発ベンチャーがつくばベンチャー大賞及び特別賞を受賞 - 産学リエゾン共同研究センター -

NPO法人つむぎつくばが主催する「第3回つくばベンチャー大賞」において、本学発ベンチャーが大賞及び特別賞を受賞しました。「つくばベンチャー大賞」を受賞したのは、山海嘉之教授（システム情報工学研究科）による人・機械・情報系の



左：山海教授  
右：谷川准教授



融合複合した新学問領域 CYBERNICSの研究成果から生まれたロボットスーツ HALの開発で注目を浴びている「CYBERDYNE株式会社」、そして「特別賞」として「つくば・安全安心社会賞」を受賞したのは、谷川武准教授（人間総合科

学研究科)による研究成果により、睡眠時無呼吸症候群の簡便な検査機器を開発して、個人の健康と大規模事故防止に貢献する「ソムノクス株式会社」です。授賞式は、10月25日、ホテルグランド東雲において行われました。「つくばベンチャー大賞」は、つくばの地に起業家精神を醸成し、つくば発ベンチャー企業の輩出を応援するという目的で、平成17年6月に創設されたものです。

チュニジア共和国記者団が北アフリカ研究センターを取材

国際協力機構(JICA)海外マスコミ本邦招聘プログラムにて、チュニジアの2大新聞社であるLa Presse 誌のMr. Hlaoui Noureddine編集長、Tunis Afrique Presse誌のMr. Mohamed SAMI KECHAOU 記者及びLe Renouveau誌のMrs. Amel Zaibi Bouzaïene記者が、10月30、31日の2日間、北アフリカ研究センター取材のため来日しました。同センターでは、日本政府の円借款事業であるチュニジアのボルジュ・セドリヤ・テクノパークのJICA研究者育成プログラム研修生受入れや、国際協力銀行(JBIC)留学生支援事業による留学先選定及び学生の受入れを実施しており、チュニジア国内での関心が高く、今回の取材が実現したものです。

取材では、センターの学術研究活動の一つとして、JICA研修生(2名)及び来年4月からの後期博士課程入学を目指し研究生として学んでいるJBIC事業による留学生(10名)のインタビューが行われ、日本、特に本学でのレベルの高い研究環境の中で、生活面においても近隣住民からの好意的なケアを受けつつ、充実した研究生生活を送っていることが報告されました。

また、研修生、留学生からは、科学技術発展のため外国で学んでいるチュニジアの



前列右から La Presse 誌 Mr. Hlaoui Noureddine 編集長, Le Renouveau 誌の Mrs. Amel Zaibi Bouzaïene 記者, Tunis Afrique Presse 誌の Mr. Mohamed SAMI KECHAOU 記者

若者の存在を、積極的に報道して欲しいなどの意見も出されました。筑波のチュニジア人ネットワークにより、今後本国に向け情報を発信していきたいとの発言も飛び出し、取材後も話が尽きることなく懇親を深めあい、大いに意義のある取材となりました。

附属小学校の夏坂哲志教諭がドミニカ共和国の算数教育改善のために専門家として派遣される

10月7~21日、JICAの要請により附属小学校の夏坂哲志教諭がドミニカ共和国の算数教育改善の専門家として派遣されました。同国の算数プロジェクトの中核グループとともに同国内の小学校の算数授業を視察し、現地の子どもと教師を対象に授業研究会を6回行い、日本の算数授業を紹介し、現地の先生方と授業改善の指針と教科書の活用について協議しました。さらに、現在、同国教育省が編集する教科書及び指導書の内容についてアドバイスをしました。現地の先生方から本学の協力に対するお礼と今後の協力の継続への期待の声が寄せられました。



左：授業研究会の様子  
右：アドバイスをする夏坂教諭

附属視覚特別支援学校児童と附属坂戸高等学校の生徒がいもほりを通して交流

- 附属坂戸高等学校 -

いもほり交流

10月19日、附属坂戸高等学校の農場で今年も附属視覚特別支援学校小学部児童と附属坂戸高等学校生徒との「いもほり交流会」が行われました。当日は天気に恵まれ、附属視覚特別支援学校小学部1～3年生の児童6名と附属坂戸高等学校生物資源・環境



科学系列選択の2年次生8名が参加しました。いもほりの後も高校生の案内のもと、ニワトリやミニブタ、ウサギなどとふれあったり、ダチョウの見学や卵用鶏の卵採りを体験しました。また、昼食時には共に弁当を広げ、楽しいひとときを過ごすことができました。短い時間ではありましたが、両校の児童・生徒にとって貴重な体験となり、有意義な交流会にすることができました。

附属桐が丘特別支援学校で附属坂戸高等学校との交流会実施

10月23日、附属桐が丘特別支援学校に附属坂戸高等学校の生徒40名が訪問し、附属桐が丘特別支援学校高等部の授業に参加しました。これは、同校で毎年行われている附属坂戸高等学校との交流会のプログラムの一つとして組まれているもので、附属坂戸高等学校では「産業社会と人間」の授業の一環として実施されているものです。両校の生徒が共同活動を通して同世代の知己を深め、自己を認識し、他者を理解し尊重する機会の一つになることも期待される試みです。当日は体育、情報、音楽、英語、国語の各授業と一緒に受けるだけでなく、参加者全員が体育館に集合し、クイズで正答数を競い合うゲームなどで親睦を深めました。珍妙な解答に会場が笑い声に満ちるなど、和気藹々の雰囲気の中に散会となりました。両校の生徒がお互いに顔見知りになったことを大切に、友情を育てて行くことを願っています。



## お知らせ

第9回無料法律相談会のご案内  
- 総務・企画部法務室 -

教職員の皆さんを対象として、本法人顧問弁護士の山口卓男弁護士（筑波アカデミア法律事務所）による無料法律相談会を定期的に開催しています。

第9回の相談会は、次の要領で実施しますので、法律問題でお悩みの方は、どうぞお気軽にお申し込みください。

日 時：12月12日(水) 13:00～16:45

場 所：筑波キャンパス内

対 象 者：本法人の全ての教職員です（常勤，非常勤を問いません）

相談事項：法律問題全般について相談できます。私生活上の問題でもかまいません。ただし、相談に応じることが顧問弁護士の職責と相容れないこととなる場合等には、相談をお断りすることがあります。

相談時間：1人につき45分までです。

申込方法：1 予約制です。

2 相談を希望される方は、12月4日(火)までに、次の法律事務所へ直接FAX又はE-mailで申し込んでください。

筑波アカデミア法律事務所（本学法科大学院併設）



住所：東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル14階

(FAX.03-3252-6743, E-mail: ACADEMIA@tsukuba-academia.com)

申込書は筑波大学公式ホームページ「学内専用」の「お知らせ」欄  
又はWebOfficeからダウンロードできます。

- 3 相談をお受けする場合、弁護士から面談の具体的な時間や場所などをお知らせします。

その他：1 弁護士には法律上守秘義務が課せられています。相談内容が他に知られることは一切ありません。

- 2 相談は、原則として申込書の先着順で行います。相談希望者が多数の場合は、次回以降の相談会で相談していただくこともあります。ただし、今回のお申込みで次回以降の予約をすることはできませんので、次回以降の申込期間内に改めてお申込みください。

また、かつて相談された方が同じ件で再度のお申込みをされた場合には、新規の相談者の方を優先させていただきます。

- 3 相談は、弁護士が直接面談する方法で行います。電話、E-mail等による相談は行いません。

- 4 無料法律相談会に関して不明な点は、法務室(TEL.2035)までお問い合わせください。

第10回無料法律相談会は、1月に筑波アカデミア法律事務所で開催する予定です。

共済積立貯金・団体積立終身保険11月提出の「解約」手続きについて - 財務部資金管理課 -

共済積立貯金・団体積立終身保険加入者の方で、11月中に解約手続きをされる場合は、12月ボーナスの事務処理上11月19日(月)までに、財務部資金管理課共済組合係(組織・人事部人事課福利厚生室内)に書類を提出してください。

なお、払いもどし等については、通常どおり月末まで受付します。

筑波大学FD研修会の開催について - 学務部学務課 -

筑波大学FD研修会「大学における『TA研修』のあり方に関する講演会」を以下のとおり開催します。

目的：カリフォルニア大学バークレー校では、ITとティーチング・アシスタントをフルに活用した先進的授業を行っており、この授業を強力に支援している同校の大学院インストラクターセンターはティーチング・アシスタント研修に関してアメリカで最も進んでいると言われている。

本講演会では、カリフォルニア大学バークレー校でのティーチング・アシスタントの活用や研修の実践例、国内外のTA研修の実情などを紹介することにより、本学におけるTA活用の向上を図る。

主催：筑波大学FD委員会

日時：11月30日(金) 14:30～17:00

場所：大学会館国際会議室

プログラム(予定)：

14:30～14:35 挨拶 工藤典雄副学長(教育)

14:40～15:40 講演

リンダ・フォン・ヘーネ博士(カリフォルニア大学バークレー校 GSIティーチング&リソースセンター長)

『カリフォルニア大学バークレー校におけるティーチング・アシスタントの役割と研修』

概要 GSIとはGraduate Student Instructor(大学院生講師)で、2本のTAに近い。北米の、多数の優秀な大学院生を擁する研究大学では院生に大学教育に積極的に参加させ、専門的分野における優れたコミュニケーション能力を持った人材養成に役立てている。バークレーはその代表格の大学である。多くの研究大学では博士課程修了者の就職支援の一環として積極的にティーチング教育に乗り出している。

15:40～16:40 講演

宇田川拓雄教授（北海道教育大学（函館校））

『大学院教育におけるティーチング・アシスタント研修の意味』

概要

これまで日本の大学では大学教員の主要な仕事の一つであるはずの「ティーチング」の価値、方法、効果、効率はほとんど研究者の関心の外にあったと言ってもよい。今回、ヘーネ博士を日本にお呼びした北大の高等教育センターを中心とする研究グループは、TA研修が研究とティーチングの双方に優れた人材を養成するシステムの一部になりうることに気づき、北米の先進大学に学び、成果をあげてきた。日本の大学で来年度から義務化されるFD研修もこのような方向を示すものと考えられる。

16:40～17:00 質疑応答

問合せ：学務部学務課成績管理・システム（TEL.2206）

第3学期授業の曜日振替について  
- 学務部学務課 -

授業日数確保のため、以下のとおり曜日が振替になっていますのでご注意願います。

平成19年12月18日(火)は、月曜日の授業を実施

平成20年1月23日(水)は、月曜日の授業を実施

2月20日(水)は、金曜日の授業を実施

2月28日(木)は、月曜日の授業を実施

平成20年度推薦入学試験実施に伴う構内交通及び駐車場について  
- 学務部入試課 -  
- 財務部資産管理課 -

11月28日(水)及び29日(木)の両日に、平成20年度推薦入学試験を実施します。

当日は受験者送迎等のため、試験場周辺の混雑が予想されますので、通行等に際して十分ご注意願います。

なお、試験前日から試験実施期間中は、受験者送迎のための自家用車及び臨時バス等の駐車場として、次のとおり構内駐車場の一部を開放しますので、ご理解、ご協力をお願いします。

試験実施期間：11月28日(水)、29日(木) 8:00～19:00

駐車場開放期間：11月27日(火)～29日(木)

開放駐車場：

受験者送迎用

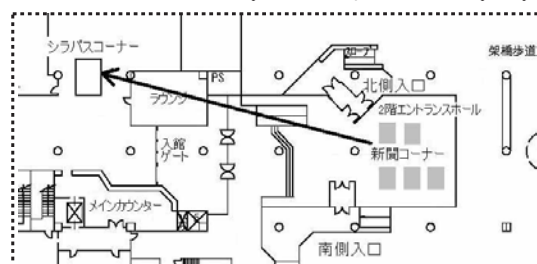
- ・23 本部北ゲート（終日ゲートオープン）
- ・K5 本部南ゲート（同）
- ・K25 第三ゲート（同）
- ・K7 体芸西ゲート（同）
- ・54 医学ゲート（同）
- ・37 南地区
- ・春日キャンパス駐車場

臨時バス及び貸切りバス用（以下の駐車場にはバスの駐車スペースを設定しますので、当該駐車場をご利用の方は空スペースに駐車願います。）

- ・23 本部北ゲート（終日ゲートオープン）
- ・37 南地区

中央図書館2階新聞コーナー移動のお知らせ

中央図書館2階エントランスホールの新聞コーナーは、コーヒーショップ設置（平成20年3月オープン予定）のため、11月29日（木）午後から館内のシラバスコーナー



（本館2階吹抜け下）に移動します。

なお、11月30日（金）午前中は移動作業のため一時ご利用いただけませんので、ご理解とご協力をお願いします。

情報学群現代GP「異分野学生の協働によるコンテンツ開発演習第1回啓発セミナー」の開催について



情報学群では、文部科学省の平成19年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に採択され、異なる背景を持つ学生が集まって一つのコンテンツを作るといふ、新しい形の教育の取組を始めることになりました。この取組の中で、コンテンツ作りとはどのようなことか、コンテンツ作りが社会環境の中でどのように進められているか、どのような課題があるか、そして将来を担う学生諸君にとってどのようなことが求められるのかといった、コンテンツに関する様々な事柄を学ぶ場として啓発セミナーを開催します。参加費は無料ですので奮ってご参加ください。

日 時：11月27日(火) 13:00～16:10

場 所：春日地区 情報メディアユニオン2階メディアホール(定員100名)

プログラム：

- 13:00～13:05 工藤典雄副学長(教育)挨拶
- 13:05～13:10 海老原義彦情報学群長挨拶
- 13:10～13:30 GPの取組概要説明
- 13:30～14:30 講演1(徳田章氏)
- 14:50～15:50 講演2(浦谷年良氏)
- 15:50～16:10 質疑・応答
- 16:10 閉会

講演1：徳田章氏(NHKアナウンサー)

- ・タイトル 「放送現場におけるコミュニケーション」
- ・概 要 トークによるメッセージの伝え方、引き出し方を語る
- 講演2：浦谷年良氏(プロデューサー、テレビマンユニオン副社長)
- ・タイトル 「集団的表現の面白さはどこにあるのか」
- ・概 要 映像表現の難しさと楽しさについて語る

問 合 せ：図書館情報等支援室学群学務係

E-mail：gendai-gp@slis.tsukuba.ac.jp

そ の 他：現代GPに関する詳細は次のHPに随時掲載予定です。

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/gendaigp/>

2007筑波大学安全キャンペーン週間「安全か？筑波まるごと問い直そ！」の実施について  
- 学生生活支援室 -  
- セーフティプロジェクト -



大学における学生生活支援充実の一環として、事件及び事件に対する予防対策を中心とした啓発活動を「安全キャンペーン週間」として、12月1日(土)～7日(金)に実施します。期間中、以下のとおり学内随所にてキャンペーンを行いますので、ご協力及び積極的なご参加をお願いします。

防犯講習会

日 時：12月5日(水) 17:00～18:45

会 場：大学会館ホール

プログラム：

- ・安全ポスターコンテスト2007表彰式(学生生活支援室)
- ・学生に係る各種勧誘トラブルについて  
岡田美枝子相談員(つくば市消費生活センター)
- ・犯罪から身を守るために - 護身術紹介  
小園文夫課長(つくば中央警察署生活安全課)  
学生参加者には防犯グッズを配布します。

交通安全指導

日 時：12月3日(月) 11:30～12:15

大学会館及び中央図書館付近のペDESTリアンデッキにて、交通安全指導に関する資料を配布します。

防犯パトロール

- 日 時：12月3日(月) 18:00～,
- 5日(水) 21:00～,
- 7日(金) 18:00～

学内のパトロールと危険箇所の実情把握を行います。なお、ボランティアを募集していますので、ご参加いただける方は、総務・企画部総務課業務企画係（E-mail：safety@sec.tsukuba.ac.jp）へ集合場所等をお問い合わせください。

#### 安全ポスター展

期日及び会場：12月1日(土)～7日(金) 第二エリア食堂内

#### 安全のしおり

- ・STUDENTS安全特集冬号として発行し、学内食堂及びスタンドにて配布
- ・ダイジェスト版を学内食堂テーブルに配置

---

#### 平成19年度第4回化学類・自然科学類化学セミナーの開催について

化学類・自然科学類では、以下のとおりセミナーを開催します。最先端の化学について分かり易く解説されますので、一般の方のご来聴を歓迎します。

日 時：11月19日(月) 6時限(16:45～18:00)

場 所：1H棟101

演 題：生体分子に学ぶ“ものづくり”

講 師：田中健太郎教授(名古屋大学大学院理学研究科)

担 当：世話人 山本泰彦教授(数理物質科学研究科化学専攻, TEL.6521)

連絡先：守橋健二教授(同, TEL.4485), 末木啓介准教授(同, TEL.2512)

---

#### 第52回 リスク工学研究会 (RERM) の開催について

リスク工学専攻では、定期的にはリスク工学研究会を開催しています。

参加は自由ですので、教員、学生を問わず、専攻外の方でも、興味をお持ちの方はふるってご参加ください。事前申し込みは必要ありません。

日 時：11月20日(火) 18:00～19:00

場 所：総合研究棟B0110公開講義室(1F)

講 師：甘利康文氏(セコム株式会社IS研究所 セキュリティコンサルティンググループ(防犯設備士, 日本リスクコンサルタント協会認定シニアリスクコンサルタント))

題 目：セキュリティの根源的定義とその要件

- あらゆる対象に適用可能なセキュリティの考え方とは -

概 要：社会の治安悪化、企業へのITの普及などをきっかけにセキュリティという言葉が良く耳にするようになってきた。この言葉はいろいろな意味で使われることが多く、それゆえセキュリティ対策を考える際には場当たりの対応になりがちだった。我々はこの現状に対し、セキュリティをエンジニアリングの対象とすることを目標に、体系化を試みてきた。

本講演では、実社会でセキュリティという言葉が使われている多様なケースを分析・抽象化して導き出した、「セキュリティの根源的考え方」としての上位概念的定義と、その実現要件について概説する。

担 当：リスク工学専攻 宮本定明

問合せ/連絡先：リスク工学専攻 RERM担当 伊藤誠

(TEL.5502, E-mail: itoh@risk.tsukuba.ac.jp)

U R L : <http://www.risk.tsukuba.ac.jp/rerm/index.html>

---

#### 第4回 iit cafe 開催について

システム情報工学研究科知能機能システム専攻では、第一線で活躍する先生とコーヒーを飲みながら、ざっくばらんに最新技術動向について語り合い、交流を深める機会として「iit cafe」を開催します。

今回は、産学リエゾン共同研究センター長でもある油田信一教授(システム情報工学研究科, 知能移動ロボット学, 屋内外作業ロボットなどの研究者)に登場いただきます。

日 時：11月28日(水) 18:15～19:15

場 所：総合交流会館多目的ホール(「大学会館前」バス停よりすぐ)

対 象：教職員及び一般の方(コーヒー代, 参加費無料)

問 合 せ : iit cafe 実行委員会 ( 知能機能システム専攻内 )  
E-mail : koho@iit.tsukuba.ac.jp

第19回医学7専攻研究セミナー  
の開催について

講演題目 : 血管新生を抑えて脳腫瘍を治す  
講 演 者 : 高野晋吾准教授 ( 人間総合科学研究科, 機能制御医学専攻, 脳神経機能  
制御医学分野 )

日 時 : 12月4日( 火 ) 17:00 ~ 18:00

場 所 : 臨床講義室 [ C ]

要 旨 : 脳腫瘍のうちグリオ - マは難治性であるが, 他臓器の腫瘍に比べて最も  
血管に富んだ腫瘍であることから血管新生を標的とした治療を研究して  
いる。

グリオ - マの血管新生のkey factorであるVEGFとhypoxiaを標的とした治  
療, 血管内皮前駆細胞 ( EPC ) を用いた治療の基礎的研究を紹介すると  
ともに, 腫瘍血管内皮細胞を用いた今後の研究の展開を述べたい。

問 合 せ : E-mail : mo04e387@md.tsukuba.ac.jp

第49回知的コミュニティ基盤  
研究センター研究談話会の開催  
について

知的コミュニティ基盤研究センターでは, 同センターの研究領域に関する分野にお  
ける最新の研究成果や話題について研究談話会を開催しています。

事前の申し込みは必要ありませんので, どなたでも自由にご参加ください。

日 時 : 12月4日( 火 ) 15:15 ~ 16:15 ( 質疑応答1時間 )

場 所 : 春日地区 情報メディアユニオン3階 共同研究会議室

講 演 者 : Haakon Lund研究員 ( 知的コミュニティ基盤研究センター, Royal School  
of Library and Information Science Department of Information Studies准教授 )

タイトル : Eye tracking systems in usability testing and as an input device

概 要 : Eye - tracking systems can be used as either a tool for usability testing or as an  
input device. The first part of my talk will be on the use of eye tracking for  
usability testing and I will present some studies I have carried out. The second  
part will be on the use of eye tracking as a tool for gaze interaction where the  
eye tracker is used as an input device. During the last 3 years my research has  
been focused on the development of a gaze controlled communication software  
for severely disabled people. The software GazeTalk is developed as an  
iterative process in close cooperation with a group of people suffering from  
ALS/MND. In my talk I will present some of the design considerations behind  
GazeTalk and introduce the features build into GazeTalk including the recent  
development of a web - service access to the collections of the Royal Library  
in Copenhagen.

問 合 せ : 知的コミュニティ基盤研究センター

TEL.8-1524 , E-mail : kc-office@slis.tsukuba.ac.jp

#### 各種表彰等

山田秀教授が2007年度日経品  
質管理文献賞を受賞

山田秀教授 ( ビジネス科学研究科, 国際経営プロフェッショナル専攻 ) は, 中條武  
志教授 ( 中央大学 ) との共同編著書籍 : 「マネジメントシステムの審査・評価に携わ  
る人のための TQMの基本」 ( 日科技連出版社 ) の功績により, デミング賞委員会から2007年度日経品質管理文献  
賞を受賞しました。



この賞は, 品質管理の発展, 啓蒙に貢献をした書籍に与  
えられ, 文献のデミング賞ともいえるものです。デミン  
グ賞委員会委員長は御手洗経団連会長, 事務局は日本科  
学技術連盟です。なお授賞式は, 11月14日に経団連会館  
で行われます。

藤井敦准教授がインターネット  
コンファレンス2007論文賞を  
受賞



藤井敦准教授(図書館情報メディア研究科)は、「Web検索におけるアンカーテキストのモデル化と質問の自動分類」の研究により、インターネットコンファレンス2007の論文賞を受賞しました。当コンファレンスでは、インターネット技術に関する投稿論文のうち、新規性、有用性、社会への貢献などの観点で採択された研究の成果が発表され、さらにその中から1件に論文賞が授与されました。

山本泰彦教授指導の数理物質科学  
研究科4年三上真一氏が国際  
磁気共鳴学会( ISMAR )から会  
議への参加旅費援助を受領



山本泰彦教授(数理物質科学研究科, 化学専攻)指導の数理物質科学研究科4年三上真一氏(化学専攻)が、国際磁気共鳴学会( ISMAR )から、第16回会議(10月14~19日, 台湾)の会場で、有望な若手研究者に対する会議への参加旅費の援助を受領しました。三上氏は「電子伝達タンパク質シトクロムcの酸化還元電位調節の分子機構」のポスター発表を行い、その研究成果が高く評価されました。

鍋島達弥教授指導の数理物質科学  
研究科2年江幡良子氏が第37  
回複素環化学討論会において最  
優秀ポスター賞を受賞

鍋島達弥教授(数理物質科学研究科, 物質創成先端科学専攻)指導の数理物質科学研究科2年の江幡良子氏は、第37回複素環化学討論会(10月17~19日, 長野市若里市民文化ホール)において発表した「3つのサロフ部位を有する大環状多核錯体のワンポット合成」により、最優秀ポスター賞を受賞しました。この賞は、研究内容、内容説明、質疑応答、ポスターの美しさなどが選考対象となり、特に優秀な発表者2名に贈られるものです。



赤阪健教授指導の数理物質科学  
研究科5年山崎裕子氏が日本化  
学会第1回関東支部大会で学生  
講演賞を受賞、及び同2年中嶋  
康二氏が同大会で優秀ポスター  
賞を受賞

赤阪健教授(数理物質科学研究科, 先端学際領域研究センター)指導の数理物質科学研究科博士課程5年山崎裕子氏(化学専攻, 旧姓飯塚)は、日本化学会第1回関東支部大会(9月27~28日, 首都大学東京南大沢キャンパス)において、講演題目「金属カーバイド内包フラレンの構造」により、学生講演賞を受賞しました。この賞は、発表内容、プレゼンテーション、質疑応答などにおいて優れた口頭発表で、講演者の今後の一層の研究活動発展の可能性を有すると期待される博士後期課程の学生会員が審査の対象となります。講演38件の中から11名が受賞したもので、山崎氏はその内の1名です。

また、同研究科前期課程2年中嶋康二氏(化学専攻)は、同大会において、講演題目「金属カーバイド内包フラレンSc<sub>2</sub>C<sub>84</sub>(II)の構造に関する研究」により、優秀ポ



左: 山崎氏  
右: 中嶋氏

スター賞を受賞しました。この賞は、発表内容、プレゼンテーション、質疑応答などにおいて優れたポスター発表で、講演者の今後の一層の研究活動発展の可能性を有すると期待される個人正会員または学生会員が審査の対象となります。講演150件の中から39名が受賞したもので、中嶋氏はその内の1名です。

浅川潔教授研究室所属の数理物質  
科学研究科2年高田賀章氏が  
IEEE LEOS2007国際会議にお  
いてBest Student Paper Award  
を受賞

先端学際領域研究センターのナノロジー研究アспектにおける浅川潔教授(数理物質科学研究科, 電子・物理工学専攻)研究室所属の数理物質科学研究科博士前期課程2年高田賀章氏が、IEEE LEOS2007国際会議(Lake Buena Vista, FL, USA, 2007/10/21-25)においてBest Student Paper Awardを受賞しました。この賞は、同国際会議で発表を行った学生の中から特に優秀な発表に対して授与されるものです。同



研究室では「超高速信号処理ナノフォトニクス・デバイス及び光集積技術に関する研究」を行っており、本受賞の対象である発表題目は、“Monolithic Growth of InAs-QDs with Different Absorption Wavelengths in Different Areas for Integrated Optical Devices”で、フォトニック結晶導波路をベースとした光集積回路への応用を目指した、量子ドットの位置選択成長技術に関する研究内容が評価され受賞に至りました。

鬼沢武久教授指導のシステム情報工学研究科1年の島田貴宏氏が日本知能情報ファジィ学会合同ワークショップ2007で優秀論文発表賞を受賞



鬼沢武久教授（システム情報工学研究科）指導のシステム情報工学研究科博士前期課程1年の島田貴宏氏（知能機能システム専攻）が、日本大学八海山セミナーハウスで開催された日本知能情報ファジィ学会合同ワークショップ2007で優秀論文発表賞を受賞しました。この賞は本ワークショップで発表した「演奏者の好みを反映した自動編曲システムの提案」に対して授与されたもので、若手研究者を対象に、研究内容をはじめ、発表態度、質疑応答の態度などを総合的に評価されての受賞です。

阿部豊教授及び藤原暁子講師指導のシステム情報工学研究科2年の粟津茂氏が第3回宇宙環境利用国際会議（3rd ISPS2007）の毛利ポスターセッションにおいて優秀賞を受賞

阿部豊教授（システム情報工学研究科）及び藤原暁子講師（同）指導のシステム情報工学研究科修士課程2年の粟津茂氏（構造エネルギー工学専攻）が、10月22～26日、奈良県新公会堂にて開催された第3回宇宙環境利用国際会議（3rd ISPS2007）における毛利ポスターセッションにおいて、優秀賞を受賞しました。ISPSは、国際宇宙ステーションをはじめとする宇宙環境を利用した研究に関連する国際会議で、3年毎に開催されてきていますが、今年はマイクロ重力学会とJAXAが主催して日本で開催されました。毛利ポスターセッションは、スペースシャトルでの宇宙実験を日本で初めて行った我が国初の宇宙飛行士であり当該分野のパイオニアでもある毛利衛日本科学未来館館長が審査を行うものです。今回は4件のポスター発表が表彰されましたが、粟津氏は、静電浮遊を用いた浮遊液滴の非線形挙動と粘性測定に関する新しい知見についての発表を行い、最高得点での受賞となりました。



ある毛利衛日本科学未来館館長が審査を行うものです。今回は4件のポスター発表が表彰されましたが、粟津氏は、静電浮遊を用いた浮遊液滴の非線形挙動と粘性測定に関する新しい知見についての発表を行い、最高得点での受賞となりました。

## その他

制定された法人規則

次の法人規則等が10月に制定されました。なお、規則等の全文については、筑波大学ホームページの「広報・公開」で閲覧できます。

国立大学法人筑波大学コンプライアンス推進規則の一部を改正する法人規則

国立大学法人筑波大学男女共同参画推進委員会規則

国立大学法人筑波大学コンプライアンス通報細則の一部を改正する法人細則

筑波大学附属病院の組織及び運営に関する規程の一部を改正する附属病院規程

## 「速報つくば」について

「速報つくば」の次回(通巻1159号)の発行日は11月29日(木)です。原稿の提出は11月21日(水)の午前中までをお願いします。

学内行事, イベント情報及び職員サークル活動などの記事も募集しています。  
なお, 「速報つくば」への寄稿に際しては, 次の事項に留意ください。

できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。

表彰関係記載項目については, 受賞者氏名, 所属, 受賞名, 簡単な賞の説明, 受賞対象論文名等(掲載誌のページ等は省略願います。)とし, 授賞式の日時, 場所等については, 必要がある場合等を除き, 省略願います。

シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は, なるべく400字以内としてください。

簡潔に記載してください。

採用の原稿は, Web上に掲載しますので, 了承願います。また, 文教速報(官庁通信社発行), 文教ニュース(文教ニュース社発行)及びSTUDENTS(学生部発行)等からの情報提供依頼があった場合は, 掲載情報(写真等を含む。)を提供しますので承知願います。

「速報つくば」のPDF版は, 次のURLで閲覧できます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/bulletin/index.html>

学内ニュース, 写真の提供及び掲載内容への意見は広報課(TEL.2801, FAX.2014)へお願いします。

E-mail: [sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp](mailto:sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp)

電子メールで寄稿された方には, 原稿受付等の返信メールを送りますので, ご確認ください。なお, 返信メールが届かない場合は, 広報課までご連絡をお願いします。